

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第803号 平成26年9月12日

偏見助長？

北斗市教育委員会は9月8日、「全国学力・学習状況調査（学力調査）」の結果について、校名を出さずに教科別正答率や改善策等を公表する事を決定しました（9月9日付北海道新聞から）。

学力調査の結果については、今回から各教育委員会の判断で学校別の平均正答率を公表出来るようになりました。しかし現実には、ほとんどの教育委員会は、結果の公表には消極的な姿勢に終始しています。こうした中で、北斗市教育委員会が他の教育委員会に先駆けて公表に踏み切った事は大変勇気のいる事であり、その英断を評価したいと思います。

北斗市教育委員会の方針に対しては、学校関係者からも「匿名であっても校名は容易に判明し、偏見を助長する」といった反対の声があったようです。

匿名であっても保護者間の情報交換で校名は直ぐに判明する、というのはその通りだろうと思います。しかし、それぞれの学校の結果が判明する事が即偏見の助長という事になるのか、私には疑問に感じます。むしろ、偏見の助長を心配するなら、だから反対ではなく、偏見の助長を防ぐ方途を検討する方が建設的だと思います。

学力調査の結果の公表によって「あそこの学校は、学力調査の結果が悪かった」という評判が立ったとしても、それは事実であって、偏見とはいえないはずで、もっとも、学校の先生方には「自分の学校の学力調査の結果が低かった」事を知られたくないという思いは当然あると思います。教育関係者に調査結果の公表に反対の声が大きいのは、「自分達のやって来た事の結果を知られたくない」という思いの裏返しなのではないかと、私には思えてなりません。

偏見というのは、広辞苑によれば

- 偏った見解
- 中正でない意見

とあります。

例えば、らい病患者は長い間社会から隔離され、大きな人権侵害を受けて来ましたが、その背景には、ハンセン病は伝染しやすいという誤ったイメージが広まり、それが人々の偏見を助長した事にあるといわれています。

また最近では、「アイヌ民族なんて、いまはもういない」と自身のツイッターに書き込んだ金子札幌市議会議員の言動が問題になっています。彼の発言の真意はよく

分かりませんが、私には、金子市議にはアイヌに対する偏見があるのではないかと感じられます。

こうした、偏ったものの見方や発言の背景には、与えられている情報そのものが誤っていたり、不正確な場合、反対に、情報は正確であっても特定の価値観や思想によってそれを正しく認識し評価出来ない、あるいはしようとしなない事があると思います。

従って、偏見を防ぐためには、事実を秘匿するのではなく、人々に事実を正確に伝え、また、その事実を正しく理解してもらうよう努力する事こそ最も重要な事であり、情報を提供しようとする者は、その事に十分配慮しければなりません。

学力調査は、小学生であれば「国語と算数」、中学生であれば「国語と数学」について、それぞれの理解度を測ろうとするものですから、学力調査で把握できる「子どもの力」は、それぞれの子も達が持っている力の極一部に過ぎない事はいまでもありません。

従って、ある学校の学力調査の結果が悪かった場合に、「あの学校は、学力調査の結果が悪かったからダメな学校だ」と一方的に決め付けたり、「あの学校の子も達は、問題児が多い」「あの学校に入れると、皆頭が悪くなる」と揶揄する言動は、明らかに事実に基づかない思い込み、悪意を持った偏見というべきであり、許されるものではありません。

文部科学省では、公表に当たっては過度な競争が起きないように、「結果の分析や課題の改善策を併記」するよう条件を付けていますが、丁寧な資料の提供や説明こそ、地域の皆さんが事実を冷静、客観的に受け止め、理解を深める上で必要不可欠だと思います。

常葉大学教職大学院の小松郁夫教授（教育行政学）は、「納税者である住民に情報を公開し、学校の現状を伝えて改革の知恵を出し合うのが基本（8月26日付朝日新聞から）」と述べていますが、私も同感です。

一方、早稲田大学の喜多明人教授（子ども支援学）は、学力調査の結果を公表すれば「学校間格差が明らかになり、競争をあおる。子どもは振り回され、ストレスにつながる（同日付朝日新聞から）」と述べています。しかし、私は、公表に対するストレスは、子ども達より学校の方がより大きいのではないかと感じています。

勿論、調査結果の公表に際し、必要以上に競争を煽らないよう十分に配慮する必要がある事は当然です。しかし、現実にある学校間格差に目をつぶり、競争を煽るとの理由で公表に反対するというのは、「自分達は一生懸命やっている」という思い込みを免罪符にしている、学校の思考停止症候群に手を貸すようなものではないでしょうか。

8月28日付北海道新聞の社説は、「児童生徒、一人一人の向上に役立てるという原点を見失わないようにしたい」と述べていますが、子ども達の学力を向上させる

ためには、学校と家庭が連携し、課題を共有しながら取り組む事が重要であり、そのためにも、調査結果は隠すのではなく、有効に活用して欲しいものだと思っています。（塾頭：吉田 洋一）